



発行 読書の森 読み-む in ちの

編集 広報事業部

事務局 茅野市教育委員会 生涯学習課内

電話 0266-72-2101

と読み-む in ちの 25周年記念の集い

式典、祝賀会で四半世紀祝う

読み-む in ちの25周年事業(五味一男実行委員長)の式典と祝賀会は11月9日、JR茅野駅前のマリオオーラル会館で行い、今井敦茅野市長、山田利幸教育長、読み-む in ちの現役、OBら約40人が出席しました。DVDビデオや写真スライド上映、歩みの展示などで四半世紀を振り返り、祝いました。

記念事業の第1弾は昨年11月から始めた本にまつわる声を市民から募集した「本との思い出を聴かせて」の冊子作成、第2弾の7月13日に鳥の巣づくりワークショップと講演(鈴木まもる講師)に続く第3弾。



本への思いを語る今井茅野市長

祝賀会は五味実行委員長の乾杯でスタート。記録写真の投影では、会員の若かりし頃の姿もあり会場が沸きました。会員の顔アップ、お宝写真などに笑いが起こりました。読み-む in ちのの紹介ビデオや写真スライドの上映では、かつて共に活動した元メンバーや故人の姿に懐かしさひとしお。みんなで宮澤賢治の「雨ニモマケズ」のパロディーを朗読。

式典では、奥原貴美子会長が「四半世紀続いたのは初代会長をはじめ尽力された方々のおかげ。この先も地域の中で読書活動が継続していくよう歩んでまいります」とあいさつ。今井敦茅野市長は「出合った本が、その人の人生そのものに影響を与える」と本への思いを語りました。

ファーストブックプレゼント、セカンドブックプレゼント、広報の3事業部と絵本のたね部会が活動の紹介をしました。



五味実行委員長が乾杯の発声

絵本の最初のページの一節からタイトルを当てるクイズでは、正解者にうれしい賞品がありました。

事業部、部の活動紹介



みんなに知ってもらおう

茅野市役所でロビー展

読りむ in ちの25周年記念事業の、ロビー展「25年のあゆみ」が10月21日から31日まで、茅野市役所1階ロビーで開催しました。これまでの活動を多くの市民の方々に知ってもらうことが目的。各事業部と一部会は15周年記念事業時を参考に、現在までの資料を検討。模造紙に写真を貼ったり、文章を書いたり、真剣に作業を進めながら、メンバー同士現状報告や交流を深めることもできました。

展示場所で、ファーストブックの絵本を手に取り子どもに読んであげるお父さん、長時間展示を眺めている高齢の男性、昼休みに見る職員の姿などがありました。



読りむ in ちの25周年記念のロビー展

来庁者や昼休みの職員を楽しました

ロビー展に併せて読み聞かせ

来庁者
職員

昼休み楽しいひととき

来庁者や昼休みの職員を楽しました



読りむ in ちの25周年記念ロビー展開催中の10月21、22、27、30の4日、会場で読み聞かせを行いました。

お昼休みの午後0時30分から15分間、ファーストブック、セカンドブックの中から1冊ずつメンバーによる読み聞かせ。来庁した市民が足を止めて聴いていたり、休憩中の職員の姿も。食事時間帯だったことで、残念ながら親子連れの姿はありませんでした。

手作り応募箱で市民から寄稿

読りーむ in ちの25周年記念事業第1弾として、冊子「本との思い出を聴かせて」を作成しました。

メンバー手作りの応募箱を各地区コミュニティセンター、市図書館、市中央公民館、生涯学習課窓口の13カ所に設置し、広く市民から原稿を集めました。

構成は▼読書の森 読りーむ in ちの紹介▼読りーむ in ちの25年のあゆみ▼ファーストブックについて、4か月健診での保護者の声、プレゼンターの声▼セカンドブックについて、セカンドブック手渡し会でのプレゼンターの声▼「本との思い出を聴かせて」のメッセージ41人。

A5判、44ページ。200部作成。



冊子「本との思い出を聴かせて」

キャラクター、ロゴ入り キーホルダーとトートバッグ

読りーむ in ちの25周年の記念品2種を作製、配布しました。

①両面アクリルキーホルダー 300個

鈴木まもる講師の鳥の巣作りワークショップ、記念講演（7月13日、永明小中えいめいホール）、記念式典、祝賀会（11月9日、マリオローヤル会館）で配布。

②A4サイズ トートバッグ 150枚

記念式典、祝賀会（11月9日、マリオローヤル会館）で配布。

いずれもキャラクターの読りーむちゃんと読りーむ in ちののカラーロゴ入りです。



アクリルキーホルダー

トートバッグ



式典 祝賀会 グラフ特集



記念撮影パチリ



思い出話がいっぱい！ テーブルスピーチ



パロディー「雨ニモマケズ」
読りむむ in ちの版を朗読



クイズ正解者に賞品



25年の歩みの展示



配られた福分け
読りむむちゃん
折り鶴

第19回茅野市小中高校生調べる学習コンクール

読りーむ in ちの賞に矢野舞歩さん(米沢小4年)

舞歩さん⑤
読りーむ in ちの賞を授与される



今年度、第19回茅野市小中高校生調べる学習コンクール(市、市教育委員会、市校長会主催)で、読りーむ in ちの賞に米沢小4年、矢野舞歩さんの「みんな知ってる? りんどうの里」が選ばれました。11月7日、市役所で行った表彰式では、奥原貴美子読りーむ in ちの会長から賞状が授与されました。応募は小学生の部が979人(1,006作品、1人で2作品が27人)、中学生の部391人(391作品)。市内全小中学生の34%からに当たります。



舞歩さんにインタビューしました。
(聞き手・奥原貴美子)

通学路にある「りんどうの里」と書かれている石碑がずっと気になっていた舞歩さん。どうしてここにあるのか、誰が建てたのか? 調べる学習のテーマを探していた舞歩さんは、この疑問を解明すべく調べる学習に挑戦しました。

家族に聞いたり、りんどう農家の方にインタビューしたり。難しい茅野市史や米沢村史は、お母さんに助けをもらいながら読み進めたそうです。

諏訪地方の中で、米沢がりんどう栽培の発祥の地であること、栽培農家がたくさんあったことなど、石碑が建てられたころのことは分かったようです。しかし、りんどうは栽培が難しく、切り花として出荷するまでには3年程度かかるので、りんどう農家が減ってしまったのかもしれないとのこと。

舞歩さんは「りんどう農家が昔のように増えてほしい。この調べる学習をクラスみんなに見てもらい、りんどうのことを知ってもらいたい」と話していました。



舞歩さん⑤のインタビュー

朝の絵本の時間見学会 9、10月 市内5園で 園児たち 絵本の世界に

「朝の絵本の時間」見学会は9月11日から10月24日まで、よこうち認定こども園、金沢、豊平、中央、中大塩の各保育園で実施。読りーむ in ちのメンバーが0、1歳児と5歳児のクラスを見学しました。

このうち豊平保育園では10月8日、メンバーと事務局の計8人が0、1歳児のつぼみ組とたんぼぼ組、5歳児のさくら組に分かれて見学。

つぼみ組では、『きゅっきゅっきゅっ』、たんぼぼ組では『ペンペンぼろん』『いもむし ごーろごーろ』さくら組では『まゆとブカブカブー』を読み聞かせしました。子どもの様子や季節感を考慮した選書。保育士は優しい

朝の絵本の時間
(豊平保育園)



眼差しで、園児たちのつぶやきを受け止めながら、心地よい調子で読み聞かせをしました。ずっと落ち着いて絵本の世界に入り込んでいる園児の姿に、日頃からの取り組みが身に付いているなあと、メンバーは感じ取っていました。

関口奈緒園長は、準備した資料で園の取り組みなど説明。ほとんどの家庭が月刊絵本を購読していること、月に1度は英語の絵本の読み聞かせをしていることなどの話に、メンバーは「継続は力なり」を実感していました。



紙芝居を楽しむ子どもたち

読み一む in ちの第5土曜日 たのしいおはなし会 **子どもらの元気な笑い声**

読み一む in ちの第5土曜日のたのしいおはなし会が11月29日、茅野市図書館で開催し、5組の親子を含む約20人が集まりました。

「まつぼっくり」の手遊び、『がまんのケーキ』の読み聞かせ、紙芝居『たこちゃん たこちゃん』『ニャーオン』、パネルシアター『5つのメロンパン』、大型絵本『おしくらまんじゅう』を楽しみました。

紙芝居のタコのじゃんけんや縄跳びで目が回り墨を吐く場面では、子どもたちの元気な笑い声が。わが子が手遊びする姿を初めて見たというお母さんは、「新しい発見をした」と喜んでいました。子どもたちも「楽しかった。面白かった」と満足そうな顔を見せていました。

次回の、「図書館たのしいおはなし会」は1月31日。

私の1冊

『クロニクル千古の闇 1 オオカミ族の少年』

ミシェル・ペイヴァー／作 さくまゆみこ／訳 酒井駒子／画
評論社 発行

この本に出合ったのは、長男が小学生の時に学年主任の先生の紹介。

図書館で初めて手に取った時、酒井駒子さんのせつなく美しい表紙にぐっと心をつかまれ、開いて数行読み、物語に引き込まれていきました。

本を数ページ読み進めてから面白くなっていくことが多いのですが、この本は違いました。読み始めてすぐに、紀元前4千年の太古の森の中に引きずり込まれました。

悪霊に取りつかれた巨大なクマに父親を殺され、ひとりぼっちになってしまった少年トラクが、まだ幼いオオカミのウルフと出会い、精霊の山を目指す冒険ファンタジーです。

2005年に発行された1巻から2010年に完結したシリーズ6巻まで、面白くて一気に読んでしまいました。図書館で2度借りましたが、好きすぎて結局買いそろえました。子どもから大人まで、男女問わずに楽しめる本だと思います。

北原邦子



※2023年から2025年まで 続編3巻(7、8、9)発行